弘前市文化芸術振興計画
策定に係るアンケート
結果報告書（案）

【市民編】
（修正部分抜粋）

令和3年〇月
弘 前 市

調査結果概要

ここでは、本調査の結果についてのまとめを記載しています。

1. 市民の文化芸術に対する意識

市民の文化芸術に対する主な意識として、以下の4つが見えてきました。

【文化芸術活動が盛んなまち】

弘前市は文化芸術活動が盛んなまちだと思う方の割合は39.4%となり、思わない方(22.7%)の割合より15ポイント以上高くなりました。

【伝統的な祭りや歴史的な建造物などの存在が、地域の愛着や誇りとなっている】

「伝統的な祭りや歴史的な建造物などの存在が地域の愛着や誇りとなる」という考え方について、そう思うと答えた方の割合は73.3%でした。文化庁調査(令和元年度)による全国の数字は31.6%となっており、それと比較すると大幅に高く、市民にとっての地域の伝統文化や文化財の存在の大きさがうかがえました。

【子どもたちの心豊かな成長の一助となる文化芸術】

子どもたちが体験を通じて文化芸術に触れ、親しみを持つことで、心豊かに育ててほしいと思う声が多く挙がりました。

【観光資源としての文化芸術】

市外の友人・知人に紹介する文化芸術的な観光スポットやおすすめの名産品は、「津軽の城郭や歴史的な街並み、文化財、遺跡など」と答えた方の割合が74.6%、「りんご、和菓子、洋菓子、郷土料理など」と答えた方の割合が70.4%となりました。

2. 市民の文化芸術の鑑賞・活動状況

文化芸術活動に取り組んだことのない方の割合は80.8%、令和元年の1年間に市内外を問わず文化芸術を鑑賞しなかった方の割合は34.1%となりました。

その主な要因として、以下の3つが見えてきました。

【文化芸術の鑑賞・活動に時間をかけられない】

仕事や学業で日々忙しく過ごしているため、そもそも鑑賞や活動をする余裕がない方が多くなりました。

【気軽に鑑賞・体験する機会がない】

文化芸術の催しの鑑賞や文化芸術の体験を気軽にできる機会がないため、気になっている催しや活動があっても一歩踏み出しづらいという意見が多く挙げられました。

【文化芸術の催し・活動の情報が得られない】

文化芸術の催しや活動がいつどこでどのように開催されているか、その情報が身近に感じられないため、鑑賞や活動への参加できないと思う声が多く挙がりました。

3. 今後の文化芸術振興に求められること

上記の1・2を踏まえ、今後の文化芸術振興においては、特に以下の5点に取り組むことが求められます。

【様々な文化芸術を頻繁に鑑賞・活動できる場の確保】

弘前市がますます文化芸術が盛んなまちになるため、より多くの市民が文化芸術の鑑賞・活動に取り組めるよう、多くの個人活動家や文化芸術団体が頻繁に鑑賞や活動ができる場を確保することが求められます。

【城郭や歴史的な街並み、文化財、遺跡等の保存・継承】

市民の地域への愛着・誇りの源泉である城郭や歴史的な街並み、文化財、遺跡等を、行政が保存・継承していくことが求められます。

【子どもたちが文化芸術に触れやすい環境の整備】

次の世代を担う子どもたちが心豊かにはぐくまれるために、子どもたちが文化芸術に触れやすいような環境づくりを、行政・市民双方が担っていくことが求められます。

【市内で行われる文化芸術の催し・活動情報の周知】

文化芸術に取り組む市民が増えるよう、市内で行われる文化芸術の催しや活動について、市民の目に届くように情報を周知する体制づくりが求められます。

【弘前市の文化芸術が持つ魅力の発信】

魅力あふれる弘前市の文化芸術を、より多くの人に知っていただくために、行政が弘前市の文化芸術を市の内外に広く発信することが求められます。